

企業発展論	教授 谷崎 敏昭
-------	----------

1. 授業のねらい・概要

企業発展論は歴史的視点で企業の経営を研究する社会科学の一分野である。この講義は、近代資本主義の誕生とその発展過程を解明することで、現代社会の構造を明らかにすることをめざしている。日本の企業は設立後、数百年にわたり永続して経営を続けるものが多く、諸外国の企業とは、企業に対する認識が異なるようである。こうした日本の企業が近代になって、日本的な経営スタイルを捨てずに発展してきたのは驚異的なことである。日本企業が、どのようにして近代化に成功したのか知ることによって、グローバル化が進み産業構造が変わっていく現代社会の本質を理解することが可能である。

2. 授業の進め方

授業は講義方式で行い、必要に応じてレポートの提出を指示する。

3. 授業計画

1. 企業の本質とその設立目的	9. 財閥解体
2. 近世の商業活動	10. 労働の民主化
3. 渋沢栄一と日本の近代化	11. 高度経済成長
4. 三井三菱の経営と発展	12. オイルショックと産業構造の転換
5. 綿紡績企業の発展・新興財閥	13. 情報化への転換
6. 重工業の発展と総合商社の役割	14. バブル経済と企業経営
7. 世界大恐慌	15. リーマンショックと日本企業
8. 戦争経済と企業	

4. 到達目標

近代株式会社制度が、どのように発展してきたのか理解し、企業が存在する理由とその目的について考える。さらに、日本企業の経営に関わる諸問題について、歴史的な観点から基本的知識を身につける。

5. 準備学習に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

授業のための下調べをすることと同時に自分の問題意識を高め、何が知りたいのか、何が問題なのか、そして管理について、どうあるべきなのか考えることが重要である。

6. 成績評価の方法・基準

期末試験 70%とレポート 30%で評価する。期末試験は論述形式で出題するので、論文・レポートの書き方について学習しておくこと。

7. テキスト・参考文献

あとで指示する。

8. 受講上の留意事項

試験ではノートの持込を許可するので、しっかりとまとめておくこと。